

I 全学の FD・SD 活動

1. FD・SD 推進委員会の事業方針と運営体制

(1) FD・SD 推進委員会事業方針

2017 年度の FD・SD 推進委員会の事業方針を①FD 活動の実質化、②SD 活動の実質化に区分して提示する。

FD 活動の実質化に向けては、従来の①FD 研修会、②授業公開、③授業評価アンケートを引き続き実施する。全学 FD 研修会については、講演型のみならず、ワークショップ型など実効性のある研修会を実施していく。また、学部の FD 研修会にも力点をおき、質の高い研修会を実施していく。そして、可能な限り両キャンパスで研修会を実施し、参加率を上げるよう努める。

全学 FD 研修会における学内の講演者は、講演内容に関連した改善提案と、関連部署が改善のために取るべきアクションについて、コメントすることを努力義務とする。

学部 FD 活動の内容については、学部の FD 委員を中心として、前年度に掲げた今後の課題を具体化し、今年度の学部における FD 活動の目的と達成目標を明確にし、年間計画を早期に策定して実施に移す。また、目標設定や実施の進捗状況ならびに実施の結果等は、その都度 FD・SD 推進委員会に報告する。

授業公開については、基本的に全科目を対象とし、全教員が参観するように働きかけ、参観者数が少ない状況を改善する。また、授業公開後の検討会の充実（内容、参加者）を図る。

授業評価アンケートについては、2016 年度秋学期より、アンケート期間外の科目も対象に加え改善を行ったので、引き続き踏襲をして実施していく。また、学生へのフィードバックの状況の改善をし、授業改善の質を上げていく。IR 推進委員会との連携を強化し、アンケートの改訂や結果の分析を実施して、その結果から授業改善へのフィードバックの仕組みを検討する（シラバス内の「期待される人間力」を授業評価結果に記載し、学生からのアンケート結果との比較を検討し、授業改善へと繋げていく。カリキュラム・ツリー（マップ）との連動等）。

次に、教育の質保証に関わる全学的な課題として、以下の点について今年度の FD・SD 推進委員会で推進または検討を行うこととする（全学 FD 研修会のテーマ候補）。

- 1) カリキュラムマップ（ツリー）の策定に着手し、学習効果の可視化を推進する。
- 2) 授業評価アンケートの実施、学生へのフィードバックを確実に実行し、授業改善の質を上げる。
- 3) 授業公開の参加者を促進し、授業改善、教育環境を整備する。
- 4) IR 推進委員会で検証・分析した情報を FD・SD 活動として取り組み、授業改善・教育改善を推進していく。

SD 推進部会での取り組みを整備し、職員の専門的知識の向上に向けて実効性のある研修会を開催していく。

(2) FD・SD 推進委員会の運営について

1) 目的

教育開発センターの事業である FD・SD 活動推進（第 3 条の（5））の目的を達成するため、第 7 条 1 項により常設の委員会として FD・SD 推進委員会を置く。

ここでいう FD（ファカルティ・ディベロプメント）とは、授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取り組みをいう。具体的には、次のとおり。

- ①教育の質的向上に関する情報の収集
- ②教育の質にかかる現状評価と諸施策の検証
- ③教育の質的向上に向けた諸施策の企画と実施
- ④FD の啓発活動（全学・各学部 FD 活動報告書の取りまとめ等）

また、SD（スタッフ・ディベロプメント）とは、大学職員として必要な知識および技能の向上を目的とした組織的な取り組みをいう。管理運営、教学支援、学生支援等の各分野における専門的知見を有する職員の育成、および、事務職員、教育職員による、より充実した執行部体制を構築する。さらに、大学運營業務の高度化を図るための人材育成を目指し、大学職員として必要な知識および技能の向上を目的とした組織的な取り組みを、以下の通り実施する。

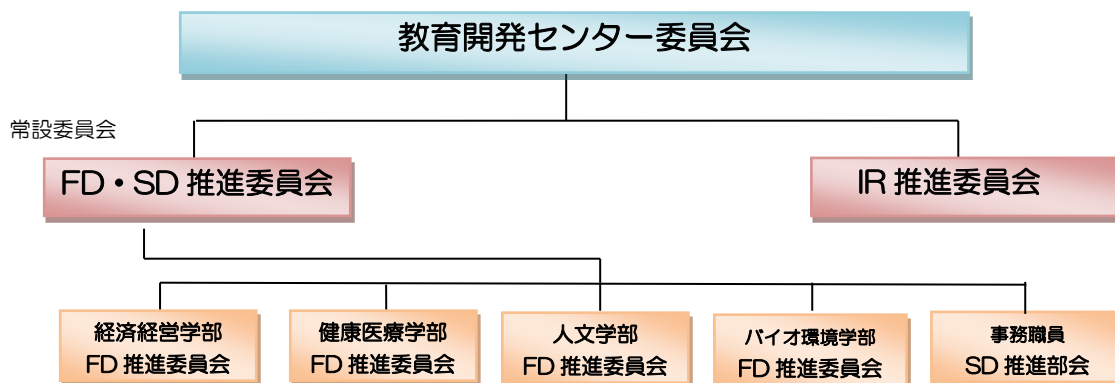
- ①大学職員としての知識および技能向上に関する情報の収集
- ②大学職員としての知識および技能向上に向けた諸施策の企画と実施
- ③SD の啓発活動（SD 活動報告書の取りまとめ等）

2) 期間

2017 年 4 月 1 日（土）～2018 年 3 月 31 日（土）

3) 委員（2018 年 3 月現在）

村田淑子（教育開発センター長）、道和孝治郎（経済経営学部）、古倉聡（健康医療学部）、有馬淑子（人文学部）、井口博之（バイオ環境学部）、堀武俊（教育修学支援センター室長）、古森寛（教育開発センター室長）



(2018 年 3 月現在)

2. FD・SD 推進委員会の報告

2017年度は、年間7回のFD・SD推進委員会を開催した。委員会では、所管する各事業についての企画・運営を行ってきた。主な事業としては、(1)FD研修会、SD研修会の開催、(2)授業公開、(3)学生による授業評価アンケートである。

また、委員会では各学部および事務局で実施されているFD活動、SD活動状況を共有し、全学FD・SD活動との連動を図ってきた。具体的な取り組みは、表1のとおりである。

表1 2017年度FD・SD推進委員会の取り組み

月	FD・SD 推進委員会	FD・SD 研修会	授業公開 授業評価アンケート	その他
4	12日(水)(亀岡) 第1回FD・SD推進委員会	19日(水)(亀岡) 26日(水)(太秦) 第1回FD研修会 第1回SD研修会 25日(火)(亀岡) 第2回SD研修会		14日(金)関西FD 【参加者】3名(健康医療学部) (教育開発センター) 20日(木)関西FD参加 【参加者】1名(国際交流センター)
5	17日(水)(亀岡) 第2回FD・SD推進委員会	23日(火)(亀岡) 31日(水)(太秦) 第3回SD研修会 24日(水)(亀岡) 第2回FD研修会 第4回SD研修会	26日(金)～6月9日(金) 授業公開 授業評価アンケート「前半授業」での実施 ※実施時期は科目によって異なる	20日(土)関西FD総会 【参加者】2名(人文学部)(教育開発センター) 24日(水)FD企画研究委員会 【参加者】1名(経済経営学部)
6	14日(水)(亀岡) 第3回FD・SD推進委員会	21日(水)(亀岡) 第3回FD研修会	12日(月) 授業公開アンケート回答期限日 14日(水)～28日(水) 授業公開意見交換会 17日(土)～30日(金) 授業評価アンケート実施	9日(金)関西FD 【参加者】1名(バイオ環境学部) 21日(水)FD企画研究委員会 【参加者】1名(経済経営学部) 22日(木)FDフォーラム企画検討委員会 【参加者】1名(経済経営学部) 24日(土)京都FD執行部塾 【参加者】1名(経済経営学部)
7	12日(水)(亀岡) 第4回FD・SD推進委員会		4日(火) 授業評価アンケート提出締切日 授業評価アンケート「後半授業」での実施 ※実施時期は科目によって異なる 21日(木) 授業評価アンケートコメント入力期限	13日(木)FDフォーラム企画検討委員会 意見交換会 【参加者】1名(経済経営学部) 21日(金)関西FD 【参加者】3名(人文学部)(健康医療学部) 22日(土)FD講演会 【参加者】1名(経済経営学部)
8				1日(火)マイクロチーム会議 【参加者】1名(経済経営学部) 2日(水)関西FD 【参加者】2名(健康医療学部)(教育開発センター) 2日(水)FDフォーラム企画

月	FD・SD 推進委員会	FD・SD 研修会	授業公開 授業評価アンケート	その他
				検討委員会 【参加者】1名(経済経営学部) 10日(木) 関西 FD 【参加者】1名(経済経営学部)
9		27日(水)(太秦) 第4回 FD 研修会 第5回 SD 研修会 29日(金)(太秦) 第5回 FD 研修会		14日(木) FD 企画研究委員会 【参加者】1名(経済経営学部) 16日(土) 新任研修 【参加者】1名(経済経営学部) 27日(水) FD フォーラム企画 検討委員会 【参加者】1名(経済経営学部)
10	11日(水)(亀岡) 第5回 FD・SD 推進委員会		30日(月)～11月11日(土) 授業公開	31日(火) FD フォーラム企画 検討委員会 【参加者】1名(経済経営学部)
11		22日(水)(太秦) 第6回 FD 研修会	13日(月) 授業公開アンケート提出 締切日 15日(水)～29日(水) 授業公開意見交換会 27日(月)～12月9日(土) 授業評価アンケート実施	
12	13日(水)(亀岡) 第6回 FD・SD 推進委員会		12日(火) 授業評価アンケート提出 締切日	
1		26日(金)(太秦) 第6回 SD 研修会	16日(火) 授業評価アンケートコメ ント入力期限	18日(木) FD 企画研究委員会 【参加者】1名(経済経営学部) 20日(土) 京都 FD 執行部塾 【参加者】1名(経済経営学部)
2	14日(水)(亀岡) 第7回 FD・SD 推進委員会	7日(水)(太秦) 第7回 FD 研修会 第7回 SD 研修会 21日(水)(亀岡) 28日(水)(太秦) 第8回 FD 研修会 第8回 SD 研修会	14日(水) ベストティーチャー賞選 出のための資料配付 28日(水) ベストティーチャー賞選 出	8日(木) FD フォーラム企画 検討委員会 【参加者】1名(経済経営学部) 13日(火) ミクロチーム会議 【参加者】1名(経済経営学部) 17日(土) 新任研修 【参加者】2名(経済経営学部)
3			10日(土) ベストティーチャー賞表 彰(学長室)	3日(土)・4日(日) FD フォ ーラム 【参加者】3名(経済経営学部) 20日(木)・21日(金) 関西 FD 【参加者】3名(経済経営学部) (教育開発センター) 23日(金) FD 企画研究委員会 【参加者】1名(経済経営学部) 29日(木) FD フォーラム企画 検討委員会 【参加者】1名(経済経営学部)

3. 学生による授業評価アンケート

本学では、以下の3点を主な目的として、学生による授業評価アンケートを実施している。

1. 授業の質や教員の教育技術を向上させる。
2. 教員は学生の声をフィードバックし、学生の満足度を向上させる。
3. 教職員、学生、社会へ評価結果を公表し、本学への信頼と評価を高める。

学生による授業評価アンケートは、春学期と秋学期の年間2回実施した（春学期は6月17日（土）～6月30日（金）、秋学期は11月27日（月）～12月9日（土））。アンケートは春学期と秋学期それぞれの学期末の各授業時間内の10分から20分程度を使って行われた。

ゼミや大学院科目、クォーター科目等も含む全科目を対象に実施しており、調査用紙には、学生の学習時間や成長を感じた力をアンケート項目に設定している。アンケート結果については、各科目担当の教員に返却し、受講生のコメントに対して「京学なび」を通して各教員が回答を行った。また、全体の評価結果をホームページで公表するとともに、受講生への回答も含めた個別結果については、教育修学支援センターで閲覧ができるようになっている。

(1) 2017年度授業評価アンケート項目

本年度の授業評価アンケートは、「講義科目」、「外国語科目」、「情報科目」、「スポーツ科目」、「ゼミ、オムニバス形式、実験・実習、大学院科目」に分かれている。アンケート項目は、共通設問項目（17項目）と科目群に特化した項目からなる。共通設問項目のうち項目1～12（12項目）を基本項目とする。

講義科目は共通設問項目の17項目、外国語科目は共通設問項目と外国語科目に特化した項目（1項目）の18項目、情報科目は共通設問項目と情報科目に特化した項目（3項目）の20項目、スポーツ科目は共通設問項目とスポーツ科目に特化した項目（3項目）の20項目から構成される。「ゼミ、オムニバス形式、実験・実習、大学院科目」については、共通設問項目のうち、項目11～17の7項目から構成される。今年度の授業評価アンケートの項目は次のとおりである。

（※授業評価アンケートの様式は「IV 資料編」を参照）

◆共通設問項目

1	<p>教員は毎回の授業で、その日の目標を示している。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
2	<p>授業時間や授業回数は守られている。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
3	<p>授業はシラバスに沿って進行している。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
4	<p>教員の声は聞き取りやすい。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
5	<p>教員の板書（パワーポイントを含む）は見やすい。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
6	<p>この授業で用意された教材（教科書を除く）や資料など（DVD その他）は、授業内容の理解に役立っている。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
7	<p>この授業は理解できる。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
8	<p>教員は学生の理解度・レベルを考慮して授業を進めている。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
9	<p>教員は私語のない授業となるよう、適切に対応している。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
10	<p>教員は質問や発言の機会を作ることに十分配慮している。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
11	<p>あなたは、この授業から刺激を受け、新しい見方・知識・技術などを得ていると思う。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
12	<p>あなたは、総合的に見て、この授業を受講してよかったと思う。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
13	<p>この授業を受講して、どの力が最も伸びたと思いますか。</p> <p>(5: コミュニケーション力、4: 協働力、3: 適応力、2: 行動力、1: 課題発見力、0: 論理的思考力)</p>
14	<p>あなたがこの科目を選んだ一番の理由を1つあげてください。</p> <p>(5: 科目内容が面白そうだから、4: 先生が魅力的だと思ったから、3: 履修コースなどで必要だから、2: 友人・先輩が勧めたから、1: 時間割の都合が良いから、0: 単位が取りやすそうだから)</p>
15	<p>あなたはこの科目のシラバスをしっかりと読んでいる。</p> <p>(5: 強くそう思う 4: そう思う 3: どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)</p>
16	<p>今までどれくらいこの授業に出席していますか。</p> <p>(5: 100～80% 4: 79～60% 3: 59～40% 2: 39～20% 1: 19～0%)</p>
17	<p>あなたが、この科目の授業1回あたり、授業時間外での予習・復習・レポートなどに費やす平均勉強時間はどれくらいですか。</p> <p>(5: 1120分以上 4: 90分 3: 60分 2: 30分 1: 15～0分)</p>

◆外国語科目に特化した設問項目

- | | |
|----|---|
| 18 | 教員は、外国語の資格試験（英検や TOEIC など）の受験をすすめている。
(5: 強くそう思う 4: そう思う 3 どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない) |
|----|---|

◆情報科目に特化した設問項目

- | | |
|----|---|
| 18 | 授業の難易度はあなたのレベルに適している。
(5: 強くそう思う 4: そう思う 3 どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない) |
| 19 | 現在のパソコン環境（ネットワーク、ソフト、パソコン機種。台数、マウス、プリンター）に満足している。
(5: 強くそう思う 4: そう思う 3 どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない)
(不満箇所があれば、裏面の自由記述欄に書いてください。) |
| 20 | TA の対応に満足している。
(5: 強くそう思う 4: そう思う 3 どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない) |

◆スポーツ科目に特化した設問項目

- | | |
|----|---|
| 18 | あなたはこの授業をなぜ履修しましたか。
(⑤体力を向上させたいから、④スポーツが好きだから、③友達に誘われたから、②体を動かしたいから、①その他) |
| 19 | 新体力テストの実施は、あなた自身の健康や体力の把握に役立っている。
(5: 強くそう思う 4: そう思う 3 どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない) |
| 20 | 教員のアドバイスは、実技をする上で有益である。
(5: 強くそう思う 4: そう思う 3 どちらともいえない 2: そう思わない 1: 全く思わない N: 当てはまらない) |

(2) 授業評価アンケートの実施結果

1) 授業評価アンケート提出状況

春学期、秋学期、それぞれの科目群別でみた授業評価アンケートの提出状況は表 2 および表 3 のとおりである。全体の提出率は、春学期・秋学期ともに 90%を超えているのに対し、受講生からのアンケート結果に対する担当の教員からのコメントの提出率は約 40%程度となっている。

表 2 2017 年度春学期授業評価アンケート提出状況

	対象 科目数	提出数	提出率 (%)	締切後 提出	回答者 なし	出席者 なし	コメント 提出数	コメント 提出率 (%)
科目全体	998	924	92.6%	22	8	14	368	36.9%
講義科目	427	403	94.4%	5	3	4	159	37.2%
情報科目	31	30	96.8%	0	0	0	10	32.3%
スポーツ科目	21	19	90.5%	0	0	0	15	71.4%
外国語科目	96	93	96.9%	0	2	5	39	40.6%
ゼミ、オムニバス 形式、実験・実習、 大学院科目	423	379	89.6%	17	3	5	145	34.3%

表 3 2017 年度秋学期授業評価アンケート提出状況

	対象 科目数	提出数	提出率 (%)	締切後 提出	回答者 なし	出席者 なし	コメント 提出数	コメント 提出率 (%)
科目全体	962	886	92.1%	34	21	9	449	46.7%
講義科目	432	410	94.9%	17	7	6	202	46.8%
情報科目	24	24	100.0%	0	1	1	11	45.8%
スポーツ科目	19	17	89.5%	0	0	0	13	68.4%
外国語科目	82	82	100.0%	2	0	0	50	61.0%
ゼミ、オムニバス形 式、実験・実習、大 学院科目	405	353	87.2%	15	13	2	173	42.7%

2) 授業評価アンケート結果

2017年度の授業評価アンケートの基本項目（12項目）の平均値は表4および表5のとおりである。講義科目は各学部の科目および全学共通科目ごとの値である。

なお、下記の表を参照する際には、次の点に留意する必要がある。

①アンケートは、「5」を最も肯定的な評価とする5段階評価で行われている（5段階での評価5：強く思う 4：思う 3：どちらともいえない 2：そう思わない 1：全くそう思わない）。表中の数値は5に近いほど肯定的な評価を受けていると判断することができる。

②表中の値は単純な平均値であり、単位数、科目分野、回答数、学生の出席状況などの違いを考慮していない。

③アンケートから得られたデータは、学部ごとの必須科目の違いや各授業の規模の違い、教員の個性などの違いを除去せず集計しているため、表中の値を以て学部間比較などを行う際は注意が必要である。

表4 2017年度春学期授業評価アンケート項目の平均値（基本項目）

	講義							全学共通	語学	情報	スポーツ	総平均
	経済	経営	法	経済経営	人文	バイオ環境	健康医療	全学				
1. 教員は毎回の授業で、その日の目標を示している。	3.75	3.92	4.20	3.85	4.01	3.84	3.56	3.89	3.88	3.81	4.21	3.90
2. 授業時間や授業回数は守られている。	4.06	4.14	4.29	4.10	4.26	4.19	3.97	4.17	4.30	4.02	4.37	4.17
3. 授業はシラバスに沿って進行している。	3.86	3.94	4.20	3.80	3.96	3.81	3.63	3.87	3.91	3.69	3.95	3.87
4. 教員の声は聞き取りやすい。	3.82	3.94	4.34	3.93	4.08	3.96	3.64	3.99	4.09	3.64	4.39	3.98
5. 教員の板書（パワーポイントを含む）は見やすい。	3.55	3.80	4.00	3.60	3.82	3.70	3.53	3.71	3.72	3.64	3.63	3.70
6. この授業で用意された教材（教科書を除く）や資料など（DVD その他）は、授業内容の理解に役立っている。	3.60	3.86	4.11	3.72	4.04	3.83	3.59	3.80	3.94	3.69	3.73	3.81
7. この授業は理解できる。	3.49	3.78	3.83	3.58	3.91	3.62	3.34	3.68	3.79	3.51	4.23	3.71
8. 教員は学生の理解度・レベルを考慮して授業を進めている。	3.49	3.79	3.83	3.58	3.80	3.62	3.30	3.60	3.81	3.36	4.08	3.66
9. 教員は私語のない授業となるよう、適切に対応している。	3.61	3.81	4.21	3.83	3.90	3.89	3.55	3.79	3.90	3.62	3.99	3.83
10. 教員は質問や発言の機会を作ることに十分配慮している。	3.43	3.73	4.03	3.54	3.71	3.70	3.29	3.48	4.05	3.24	3.82	3.64
11. あなたは、この授業から刺激を受け、新しい見方・知識・技術などを得ていると思う。	3.50	3.71	3.88	3.59	3.89	3.73	3.41	3.61	3.63	3.49	3.98	3.67
12. あなたは、総合的に見て、この授業を受講してよかったと思う。	3.72	3.83	4.09	3.67	3.94	3.76	3.50	3.70	3.81	3.56	4.23	3.80
総平均	3.66	3.85	4.08	3.73	3.94	3.80	3.53	3.77	3.90	3.61	4.05	

表5 2017年度秋学期授業評価アンケート項目の平均値（基本項目）

	講義							全学共通	語学	情報	スポーツ	総平均
	経済	経営	法	経済経営	人文	バイオ環境	健康医療	全学				
1. 教員は毎回の授業で、その日の目標を示している。	3.65	3.97	4.52	3.85	4.08	3.88	3.59	3.89	3.92	3.98	4.38	3.97
2. 授業時間や授業回数は守られている。	3.89	4.03	4.57	4.06	4.22	4.19	3.97	4.17	4.29	4.10	4.51	4.18
3. 授業はシラバスに沿って進行している。	3.64	3.98	4.33	3.78	4.00	3.88	3.61	3.87	3.94	3.77	3.99	3.89
4. 教員の声は聞き取りやすい。	3.63	4.00	4.57	3.90	4.12	4.01	3.67	3.99	4.18	3.80	4.57	4.04
5. 教員の板書（パワーポイントを含む）は見やすい。	3.36	3.84	4.24	3.60	3.87	3.78	3.60	3.71	3.91	3.80	4.01	3.79
6. この授業で用意された教材（教科書を除く）や資料など（DVD その他）は、授業内容の理解に役立っている。	3.41	3.91	4.38	3.74	4.08	3.87	3.66	3.80	4.05	3.74	3.97	3.87
7. この授業は理解できる。	3.39	3.85	4.19	3.61	3.97	3.69	3.41	3.68	3.86	3.70	4.34	3.79
8. 教員は学生の理解度・レベルを考慮して授業を進めている。	3.40	3.84	4.43	3.58	3.90	3.68	3.39	3.60	3.90	3.63	4.24	3.78
9. 教員は私語のない授業となるよう、適切に対応している。	3.61	3.93	4.24	3.72	3.92	3.90	3.59	3.79	3.98	3.77	3.97	3.86
10. 教員は質問や発言の機会を作ることに十分配慮している。	3.29	3.76	4.24	3.48	3.83	3.71	3.31	3.48	4.20	3.44	4.13	3.72
11. あなたは、この授業から刺激を受け、新しい見方・知識・技術などを得ていると思う。	3.45	3.82	4.50	3.60	4.00	3.76	3.48	3.61	3.74	3.65	4.20	3.80
12. あなたは、総合的に見て、この授業を受講してよかったと思う。	3.46	3.90	4.43	3.64	4.08	3.77	3.53	3.70	3.91	3.73	4.30	3.86
総平均	3.51	3.90	4.39	3.71	4.01	3.84	3.57	3.77	3.99	3.76	4.22	

上述の通り、表の読み方には一定の配慮が必要であるものの、平均値からみると、春学期・秋学期のいずれの項目においてもおおよそ 3.5～4.5 程度となっている。5 段階の回答（5：強く思う～3：どちらともいえない～1：全くそう思わない）であることから、学生による授業評価アンケート結果からは、全体的に授業に対して肯定的に捉えられているといえる。継続的に授業評価アンケートを行い、結果を公表していくことで、更なる授業の改善と本大学の取り組みへの理解につなげていくものとする。

3) Best Teacher 賞

本学では、2010 年度より、年度を通じて教育上の功績が高いと認められた教員を「Best Teacher 賞」として選出し、表彰している。FD 推進委員会において、授業の性格や学生の授業評価アンケート、授業の運営方法など広範な視点から教育上高い評価が認められる教員を選び、学長より表彰が行われる。

2017 年度の受賞者は表 6 のとおりである。

2018 年 3 月 10 日（土）に学長室において表彰式が行われた。



表 6 2017 年度 Best Teacher 賞受賞教員

学部	氏名（敬称略）
人文学部	池田 恭浩
健康医療学部	杉山 智春
バイオ環境学部	萩下 大郎

4. 授業公開

授業公開については、春学期と秋学期の年間2回実施した（春学期は5月26日（金）～6月9日（金）、秋学期は10月30日（月）～11日（土））。学期ごとに全教員が各授業を参観することとし、専任教員については原則として2つ以上の授業を参観することとした。参観した教員はアンケートを記入し、そのアンケート集計結果をもとに各学部FD推進委員会で意見交換会を行った。

(1) 授業公開アンケート項目

授業を参観した教員は、参観したそれぞれの授業についてアンケートを記入する。アンケートは、授業を観察して参考になった点やアドバイスを、参観した教員が記入するものとなっている。アンケートでは、観察の視点の例として、①授業技術に関して②授業運営・授業構成に関して③授業の目標・達成度・理解度・満足度・内容に関する取り組みや工夫④学習活動・学生の参加度に対する取り組み・工夫⑤アドバイスなどを挙げている。

（※授業公開アンケート（参観者）の様式については「IV 資料編」を参照）

(2) 授業公開実施結果（参加状況）

春学期および秋学期の授業公開における教員（専任）の参加状況は表7のとおりである。なお、授業を参観し、授業公開アンケート（参観者）の提出をもって授業公開に参加したものとする。

表7 2017年度授業公開の参加状況

学部	春学期参加率	秋学期参加率
経済経営学部	66.7% (32/48人)	50.0% (24/48人)
人文学部	61.5% (16/26人)	53.8% (14/26人)
バイオ環境学部	45.2% (14/31人)	29.0% (9/31人)
健康医療学部	63.5% (33/52人)	32.7% (17/52人)

学部によっては参加率（参加教員数/教員数）が50%を下回る箇所も見られる。授業公開の趣旨を周知した上での積極的な参加の呼びかけや、実施時期や期間などの工夫を検討する必要がある。

5. FD 研修会

2017年度は、表8のとおり、SD研修会との共催も含めて年間8回のFD研修会を実施した。
 (※各回実施内容等は「IV 資料編」を参照)

表8 2017年度FD研修会実施状況

	開催日	テーマ (講師)	参加人数
第1回	2017年 4月19日(水) 4月26日(水)	「公的研究費の運営・管理に関する取組みについて」 高瀬尚文 研究・連携支援センター長 「科研費プロの使用方法について及び科研費使用における 注意事項について」 研究・連携支援センター 前川珠実 職員	80名
第2回	5月24日(水)	「文科省による大学入試改革等について」 乳原孝 入学センター長	77名
第3回	6月21日(水)	「事例報告：良い授業を創るために —授業の中で工夫していること—」 経済経営学部 堀池敏男 先生 人文学部 乳原孝 先生 健康医療学部 井口順太 先生	65名
第4回	9月27日(水)	「カリキュラム・ツリー (マップ) 作成ワークショップ」 大阪大学 佐藤浩章 准教授	31名*
第5回	9月29日(金)	「学習効果測定の結果報告について」 健康医療学部 西田直子 先生 教育開発センター 神原歩 先生 教育開発センター 湯口恭子 先生	25名
第6回	11月22日(水)	「第二外国語のドイツ語学習者を対象としたドイツ語学研 修—主体的な行動のための事前学習とその影響—」 健康医療学部 熊谷知実 先生	26名
第7回	2018年 2月7日(水)	「障がいのある学生支援について」 京都大学 学生総合支援センター チーフコーディネーター 村田淳 准教授 池川哲史 教育修学支援センター長	44名
第8回	2月21日(水) 2月28日(水)	「業務・教育指導上許される注意・叱責とパワハラ、アカ ハラの境目～巧い叱り方、賢い叱られ方～」 学校法人京都学園 監事 草野功一 先生	75名

*カリキュラム・ツリー (マップ) 作成に関与する教員を指名

6. SD 研修会

2017年度は、表9のとおり、FD研修会との共催も含めて年間8回のSD研修会を実施した。
 (※各回実施内容等は「IV 資料編」を参照)

表9 2017年度SD研修会実施状況

	開催日	テーマ (講師)	参加人数
第1回	2017年 4月19日(水) 4月26日(水)	「公的研究費の運営・管理に関する取組みについて」 高瀬尚文 研究・連携支援センター長 「科研費プロの使用方法について及び科研費使用における 注意事項について」 研究・連携支援センター 前川珠実 職員	16名
第2回	4月25日(火)	「学園諸規則(例規)規程、改廃の基本的ルール」 学校法人京都学園 監事 草野功一 先生	18名
第3回	5月23日(火) 5月31日(水)	「契約書の読み方と作り方 [Drafting]」 ～How to check the draft.～ ～How to draft the contract.～ 学校法人京都学園 監事 草野功一 先生	70名
第4回	5月24日(水)	「文科省による大学入試改革等について」 乳原孝 入学センター長	13名
第5回	9月27日(水)	「カリキュラム・ツリー(マップ)作成ワークショップ」 大阪大学 佐藤浩章 准教授	6名*
第6回	2018年 1月26日(金)	「これまでの感謝を込めて 一皆さんと楽しい対話をしながら進めますー」 石原祐次 法人事務局長	55名
第7回	2月7日(水)	「障がいのある学生支援について」 京都大学 学生総合支援センター チーフコーディネーター 村田淳 准教授 池川哲史 教育修学支援センター長	22名
第8回	2月21日(水) 2月28日(水)	「業務・教育指導上許される注意・叱責とパワハラ、アカ ハラの境目～巧い叱り方、賢い叱られ方～」 学校法人京都学園 監事 草野功一 先生	21名

*カリキュラム・ツリー(マップ)作成に関与する教員を指名

7. 外部の研修会等への参加状況

2017年度のFD・SDに関わる外部の研修会等への参加状況は、表10のとおりである。SDに関わる研修会として、2017年度も「JMA 大学SD フォーラム」に各部署から職員が参加することとした。

表10 2017年度外部の研修会（JMA 大学SD フォーラム）への参加状況

開催日	テーマ	参加人数（所属）
6月5日（月）	タイム・マネジメント基礎セミナー	1名（教育修学支援センター）
6月14日（水）	学生募集部署新人・新担当者のための学生募集業務基本セミナー	1名（入学センター）
6月15日（木）	業務改善入門セミナー	2名（教育修学支援センター、キャリアサポートセンター）
6月21日（水）	管理・監督者のための時間資源適正化推進施策研究セミナー	1名（教育修学支援センター）
6月29日（木）	アンガーマネジメント基本セミナー	4名（研究・連携支援センター、教育修学支援センター、総務財務課）
7月3日（月）	プレゼンテーションセミナー	1名（研究・連携支援センター）
7月13日（木）	管理者のための人事評価研究ワークショップ	1名（教育修学支援センター）
7月18日（火）	ファシリテーションセミナー	2名（教育修学支援センター、キャリアサポートセンター）
7月20日（木）	学校会計の基本と経営分析基礎セミナー	1名（教育修学支援センター）
8月3日（木）	チームワーク向上のための「報・連・相」基本セミナー	2名（教育修学支援センター）
8月29日（火）	企画スタッフとしての課題と能力・行動要件の研究ワークショップ	1名（企画課）
9月5日（火）	IR(インスティテューショナル・リサーチ)の基本と活用事例研究セミナー	1名（教育開発センター）

開催日	テーマ	参加人数（所属）
9月7日（木）	学校関連法令の基本体系と学内規程作成・整備・運用研究セミナー	2名（総務財務課）
9月13日（水）	女性リーダーのためのワークショップー自己を知り、自己の強みを活かしたリーダー像を考えるー	1名（研究・連携支援センター）
9月28日（木）	対人折衝スキル基本セミナー	2名（総務財務課）
9月29日（金）	輝く自己のキャリアデザインセミナー	1名（キャリアサポートセンター）
10月16日（月）	管理職のためのコーチングセミナー	2名（秘書・広報課、教育修学支援センター）
10月19日（木）	ストレスマネジメント基礎セミナー	4名（入学センター、研究・連携支援センター、学術情報センター、総務財務課）
10月24日（火）	高等教育政策と大学改革の動向研究セミナー	2名（施設課、教育修学支援センター）
12月12日（火）	ロジカル・シンキングセミナー	2名（教育修学支援センター、キャリアサポートセンター）

※会場は全て新大阪ブルックビル

8. FD・SD推進委員会の記録

2017年度のFD・SD推進委員会の記録は、表11のとおりである。

表11 2017年度FD・SD推進委員会の記録

	開催日	内容
第1回	2017年 4月12日(水)	議題1. 2017年度FD・SD推進委員会の事業方針と運営について(案) 議題2. 2017年度FD・SD推進委員会事業とスケジュールについて(案) ①FD研修会について ②SD研修会について ③授業公開について ④授業評価アンケートについて ⑤外部団体に関わるFD活動について 議題3. 2017年度の委員の分担について(案) 報告1. 2016年度FD・SD推進活動報告書の作成について
第2回	5月17日(水)	議題1. 2017年度FD・SD推進委員会事業とスケジュールについて(案) ①FD研修会について ②SD研修会について ③授業評価アンケートについて 報告1. 2016年度FD・SD推進活動報告書の作成について 報告2. 2017年度第1回FD・SD研修会のアンケート結果について 報告3. 2017年度第2回SD研修会のアンケート結果について その他1. 2017年度各学部FD活動方針ならびに事務局SD推進部会の 方針について(依頼) その他2. 2017年度秋学期のFD・SD推進委員会の開催について その他3. 授業公開について その他4. Best Teacher賞の選考について
第3回	6月14日(水)	議題1. 2017年度FD・SD推進委員会事業とスケジュールについて(案) ①FD研修会について ②SD研修会について 議題2. 事務職員一覧冊子について 議題3. Best Teacher賞について 報告1. 2017年度各学部FD活動方針ならびに事務局SD推進部会の方 針について 報告2. 2016年度FD・SD推進活動報告書の作成について 報告3. 授業公開アンケートについて ①集計結果について ②各学部での意見交換会について 報告4. 2017年度FD・SD研修会のアンケート結果について
第4回	7月12日(水)	議題1. 授業公開の各学部意見交換会について 議題2. 授業公開の方針確認について 議題3. 授業評価アンケートについて 議題4. FD・SD推進活動報告書のWeb報告実施について 報告1. 2017年度春学期 学生による授業評価アンケートについて 報告2. 2017年度FD・SD研修会のアンケート結果について

	開催日	内容
第5回	10月11日(水)	議題1. FD・SD研修会について 議題2. FD・SD推進活動報告書ネット掲載原案について 議題3. 授業公開の方針について 議題4. 授業評価アンケートについて 議題5. 学部学科でFD研修会を行う際の予算について 報告1. 2017年度 FD・SD研修会のアンケート結果について
第6回	12月13日(水)	議題1. FD・SD研修会について 議題2. 授業公開について 議題3. 授業評価アンケートについて 報告1. 2017年度 FD・SD研修会のアンケート結果について 報告2. 第23回FDフォーラムの開催について
第7回	2018年 2月14日(水)	議題1. FD・SD研修会について 議題2. 授業公開について 議題3. 授業評価アンケートについて 報告1. 2017年度FD・SD推進活動報告書作成のスケジュールについて 報告2. 2017年度第7回FD・SD研修会のアンケート結果について 報告3. 次年度について

9. 2017年度のFD活動・SD活動の総括

2017年度 FD 活動・SD 活動の総括として、FD・SD 推進委員会が従来から取り組んでいる (1) 学生による授業評価アンケート、(2) 授業公開、(3) FD 研修会、SD 研修会について、実施・運営を従来に引き続き行うことができた。具体的には、(1) 授業評価アンケートでは、未実施の教員に対し理由を提案してもらうことが決定した。また翌年度より「京学なび」を用いたアンケート WEB 化と簡素化が決定し、内容、方法、時期を含めた実施に向けた準備を進めた。(2) 授業公開では、より授業改善に役立てられるように各学部の状況や改善案などの情報を収集し検討する一方で、2019年度よりのカリキュラム改革などに応じて方針が大幅に変更される可能性があり、教育学の専門家の意見を踏まえて同じく 2019 年度よりの新制度に合わせて改善実施していくため 2018 年度は授業公開を実施せず改善を検討していくことが決定した。(3) FD 研修会については、本年度より FD 研修会の記録映像を基にしたパスワード方式によるネット配信を基にしたビデオ視聴を開始した。これにより 2017 年度において基準日 5 月 1 日所属専任教員の対外的 FD 参加率 100%を実現することができた。FD 研修会、SD 研修会はともに 8 回の実施があり、うち 5 回は合同研修会とし、そのうち 1 回は前年開催した 3 つのポリシー作成研修会の次段階である「カリキュラム・ツリー (マップ) 作成ワークショップ」を関連教職員対象に開催できた。さらに研修会の開催提案を明確化するため、当年度の全学で開催したい研修会は 6 月末までに指定の様式を持って推進委員会に申し込む形式とすることが承認された。

以上が 2017 年度の活動として、特に評価できる点である。

10. 2018 年度の FD 活動・SD 活動に向けた課題

今後の課題として、従来の課題である (1) 学生の学修支援体制の充実、(2) FD 活動実質化の更なる推進、(3) 教育改善を支える IR 推進委員会との連携の強化に加えて、(4) カリキュラム改革の実施に向けた、教育修学支援センターと連携した FD 活動が必要となる。よってこれらを具体的な施策に反映させて、今後の教育改善を進めていく。その具体的な内容は以下のとおりである。

- ・カリキュラム改革に連動した、新カリキュラム実施を可能とする FD 活動
- ・PBL、サービス・ラーニングなどのアクティブ・ラーニングの推進
- ・カリキュラムマップ、カリキュラム・ツリーを策定し、学習効果の可視化を推進
- ・研修会をキャンパス間で中継して開催できるよう検討
- ・初年次キャリア科目のカリキュラム改革を見据えた授業改善
- ・授業評価アンケート WEB 化の円滑な実施、ならびに結果の IR 推進委員会と連携した活用、さらに授業改善、教育改善への応用
- ・授業評価アンケートの結果を参考にして学部において選出される Best Teacher 賞の名称や選出方法の見直し
- ・効果的な授業公開を検討し、授業改善、教育環境を整備
- ・課題解決を積み重ねながら、各学部・研究科等主体の FD 活動も着実に推進
- ・SD 推進部会における取り組み整備と、SD 活動のさらなる普及化
- ・職員の専門的知識の向上にむけて、実効性のある研修会や意見交換会を開催